

令和2年度 決算概要

1. 連結決算概要（経営成績）

（単位：億円〔単位未満切捨て〕）

区 分	令和元年度 決算 A	令和2年度 決算 B	対前年増減額・率		令和3年度 計画 ※1
			B-A	(%)	
営業収益	12,643	11,946	△ 696	△5.5%	10,935
高速道路事業	11,817	11,281	△ 535	△4.5%	10,355
(料金収入)	8,574	7,143	△ 1,430	△16.6%	7,003
(道路資産完成高)	3,160	4,058	897	28.4%	3,280
(その他の営業収益)	82	79	△ 2	△3.4%	71
関連事業	891	742	△ 148	△16.6%	663
(SA・PA事業)	406	243	△ 162	△40.0%	287
(受託・その他の事業)	484	498	14	2.9%	375
セグメント間取引の消去	△ 65	△ 77	△ 11	-	△ 84
営業費用	12,542	12,005	△ 536	△4.2%	11,125
高速道路事業	11,741	11,300	△ 441	△3.7%	10,536
(道路資産賃借料)	6,118	4,809	△ 1,309	△21.3%	4,816
(道路資産完成原価)	3,160	4,058	897	28.4%	3,280
(管理費用等) ※2	2,462	2,432	△ 29	△1.2%	2,439
関連事業	867	783	△ 83	△9.6%	673
(SA・PA事業)	384	291	△ 93	△24.2%	301
(受託・その他の事業)	482	492	9	1.9%	372
セグメント間取引の消去	△ 65	△ 77	△ 11	-	△ 84
営業利益（△損失）	100	△ 59	△ 159	-	△ 190
高速道路事業	76	△ 18	△ 94	-	△ 180
関連事業	23	△ 41	△ 64	-	△ 9
経常利益（△損失）	137	△ 25	△ 162	-	△ 188
親会社株主に帰属する 当期純利益（△損失）	99	△ 97	△ 197	-	△ 206

※1) 令和3年度計画は、当社が現時点で合理的と判断する一定の前提に基づいており、多分に不確定な要素を含んでいます。実際の業績はさまざまな要素により、上記の計画と異なる可能性があることをご承知おきください。なお、令和3年度より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用しております。

※2) 高速道路事業の管理費用等には、自治体等が管理する高速道路を跨ぐ道路（跨道橋）のうち、ロッキング橋脚の橋梁に対する耐震対策事業が含まれており、当該事業は高速道路事業の利益剰余金を原資とした「跨道橋耐震対策積立金」等を活用しております。

(注) 当社グループの事業区分及びその主要内容は、以下のとおりです。

事業区分	主要内容	
高速道路事業	高速道路の新設、改築、維持、修繕、災害復旧その他の管理等	
関連事業	SA・PA事業	高速道路の休憩所、給油所等の建設、管理等
	受託事業	国、地方公共団体等の委託に基づく道路の新設、改築、維持、修繕等、その他委託に基づく事業等
	その他の事業	駐車場事業、トラクターターミナル事業等

2. 通期営業概況

(1) 高速道路事業の営業状況

- 高速道路事業の営業収益は、前年度比535億円減の1兆1,281億円となりました。
このうち、料金収入については、新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛の影響から交通量が大きく減少したことにより、前年度比1,430億円減の7,143億円となりました。
交通量については前年度比▲12.3%でしたが、小型車▲13.5%に対して大型車は▲7.8%であり、国民生活を支える物流が比較的堅調であったことにより、減少幅が抑えられる結果となりました。
また、建設した道路資産を独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構(以下「機構」といいます。)に引き渡した額である道路資産完成高については、常磐自動車道(いわき中央インターチェンジ(IC)～広野ICのうち一部区間、山元IC～亘理IC)及び仙台東部道路(亘理IC～岩沼IC)の4車線化などにより、前年度に比べて道路資産の引き渡しの規模が大きかったため、前年度比897億円増の4,058億円となりました。
- 高速道路事業の営業費用は、前年度比441億円減の1兆1,300億円となりました。
営業費用のうち、機構に対する道路資産賃借料(※)は、前年度比1,309億円減の4,809億円となりました。
道路資産完成原価については、道路資産完成高と同額を計上しています。
管理費用等については、大雪により雪氷対策費用が増加したものの、安全・安心に関する対策を着実に実行したうえで、土木構造物や施設設備の補修時期を見直したことなどにより、前年度比29億円減の2,432億円となりました。
- この結果、料金収入により道路資産賃借料及び管理費用等を賄えなかったため、高速道路事業は18億円の営業損失(前年度は、76億円の営業利益)となりました。

※道路資産賃借料について

料金収入の実績が、機構と高速道路会社(以下「会社」といいます。)との協定に定める計画収入の一定割合を超えて変動する際には、一定割合を超える部分について会社から機構に支払う道路資産賃借料の加減算を行う仕組みとなっております。

当社においては、令和2年度は料金収入の減少により、協定に基づく道路資産賃借料の年度計画額に対して728億円支払いが少なくなりました。

なお、協定締結以降これまで(平成18年度～令和2年度)における年度毎の加減算(その時点ごとの協定に基づく計画額に対する加減算)の合算では、当社は3,015億円多く道路資産賃借料を支払っています。

(2) 関連事業の営業状況

- SA・PA事業の営業収益は、交通量減少に伴う飲食・物販店舗売上高の減少などにより、前年度比162億円減の243億円となりました。
- SA・PA事業における営業費用は、店舗売上高減少に伴う売上原価及び販管費の減少により、前年度比93億円減の291億円となりました。
- この結果、SA・PA事業は47億円の営業損失(前年度は、22億円の営業利益)となりました。
- 受託事業・その他の事業を加えた関連事業全体では、41億円の営業損失(前年度は、23億円の営業利益)となりました。

【参考】

個別決算概要（経営成績）

（単位：億円（単位未満切捨て））

区 分	令和元年度 決算 A	令和2年度 決算 B	対前年増減額・率	
			B-A	(%)
営業収益	12,308	11,735	△ 573	△4.6%
高速道路事業	11,748	11,216	△ 531	△4.5%
(料金収入)	8,574	7,144	△ 1,430	△16.6%
(道路資産完成高)	3,160	4,058	897	28.4%
(その他の売上高)	13	14	0	6.5%
関連事業	559	518	△ 41	△7.4%
(SA・PA事業)	106	69	△ 36	△34.6%
(受託・その他の事業)	453	448	△ 4	△1.0%
営業費用	12,270	11,817	△ 453	△3.6%
高速道路事業	11,717	11,272	△ 444	△3.7%
(道路資産賃借料)	6,118	4,809	△ 1,309	△21.3%
(道路資産完成原価)	3,160	4,058	897	28.4%
(管理費用等) ※	2,438	2,405	△ 33	△1.3%
関連事業	552	544	△ 8	△1.5%
(SA・PA事業)	95	93	△ 2	△2.3%
(受託・その他の事業)	457	451	△ 6	△1.3%
営業利益（△損失）	38	△ 82	△ 120	-
高速道路事業	31	△ 55	△ 87	-
関連事業	7	△ 26	△ 33	-
経常利益（△損失）	70	△ 42	△ 113	-
当期純利益（△損失）	58	△ 56	△ 114	-

※) 高速道路事業の管理費用等には、自治体等が管理する高速道路を跨ぐ道路（跨道橋）のうち、ロッキング橋脚の橋梁に対する耐震対策事業が含まれており、当該事業は高速道路事業の利益剰余金を原資とした「跨道橋耐震対策積立金」等を活用しております。

【参考】令和2年度のピックアップ

【高速道路事業】

■安全で快適な高速道路の整備(4車線化)

常磐自動車道・仙台東部道路については、いわき中央IC～広野IC間(約27km)と山元IC～岩沼IC間(約13.7km)の4車線化を平成28年より進めておりましたが、いわき中央IC～広野IC間の一部(約4km)を除き、4車線運用を開始(令和3年3月)しました。いわき中央IC～広野IC間の残る区間については、6月13日(日)に4車線運用を開始する見込みとなり、これにより同区間の4車線化事業がすべて完成となります。



いわき中央IC～いわき四倉IC間(好間トンネル付近)の4車線化前後の状況

■高速道路リニューアルプロジェクト(機能の向上と長寿命化)

高速道路のネットワーク機能を長期にわたって健全に保つため、老朽化した橋りょうの対策工事やトンネルの補強工事などを実施しています。橋りょうについては、令和2年度は、東北自動車道 花巻IC～紫波IC間の滝名川橋(下り線)など、9橋の床版取替工事に着手し、このうち8橋の工事が完了しました。



東北道 滝名川橋床版取替工事

【関連事業】

■SA・PA商業施設のリニューアルオープン

令和2年9月29日(下り線)及び10月28日(上り線)に東北自動車道 国見SAをドラマチックエリアとしてリニューアルオープンしました。東北と関東をつなぐ交通の要衝としてかつて宿場町が栄えた歴史と、肥沃な風土から年間を通じて果実や野菜などの農産物が収穫される立地環境から、「四季見宿(しきみしゆく)」をコンセプトに、旬の食材・特産品を取り揃え、四季折々の賑わいを感じられる空間を演出します。

国見SA
(上り線)



国見SA
(下り線)

